

日本文藝學論究

第七十六冊

目次

舒明天皇望国歌の構造と論理——「天」と「国」と「海」——	土佐 秀里 (1)
『源氏物語』宿木卷藤花宴の意義——正編の藤花宴と准拠との連関——	山本 夏希 (13)
恋川春町の戯作意識と方法	中村 正明 (24)
梶井基次郎「交尾」論——「私」の視線とその語り——	岩渕 真未 (35)
川端康成『千羽鶴』論——〈死〉の連鎖と茶器をめぐって——	山田 愛美 (46)
横光利一「兄妹行進曲」における〈民族〉への視線 ——交錯する二重性を包摂するということ——	石井 佑佳 (58)
國文學會通信	(67)
彙報	(80)
編集後記	(84)